

RPPC メールマガジン 第 873 号

リサイクルポート推進協議会（令和 3 年 5 月 26 日）

■先週・今週の事務局からのお知らせ

1.5 月 24 日（月）「第 29 回 幹事会」を開催しました。

2. R03_定時総会の「書面開催」について

令和 3 年度定時総会につきましては、

現下の新型コロナウイルスの状況に鑑み、書面で行う方向で調整中です。

議案書の発送は、運営委員会終了後の 6 月中旬を予定しております。

※詳細につきましては RPPC ホームページにも掲載していきます。

<http://www.rppc.jp/>

3. 各団体の登録情報について【重要】

総会に向けて議案書等の郵送を行います。

担当者の変更、役職・住所変更等ございましたら

お早目に事務局までお知らせいただきますようお願い致します。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.サイバーポート第 6 回委員会開催、利用者利便性向上へ取組

国土交通省港湾局は 5 月 14 日、第 6 回「港湾の電子化（サイバーポート）推進委員会」を開催した。4 月から第 1 次運用が始まった港湾物流分野のサイバーポートについて、現状報告すると共に引き続き機能向上に取組み、ユーザーの利便性を図っていくとの考えを示した。また港湾管理分野については本年上半期を目途にシステムの要件を具体化し、下半期以降に設計・構築に向けて取組を進める。港湾インフラ分野に関しても、今年秋にも第 4 回 WG 会合を開催し、プロトタイプ設計報告、年度末にはプロトタイプ構築について報告し、データ公開ルールなどをまとめる予定。

第 6 回推進委では、4 月から基本的機能について運用が始まった港湾物流分野について、利用者も交えて意見や課題を聴くとともに機能の追加や N A C C S との連携など、更に機能改善を図りつつ、利用拡大を促進していく。同分野については機能アッ

プを図る中で来年度には社会実装へと発展させていく考え。

港湾管理分野の取組では、昨年度の検討結果としてシステムが備えるべき機能の素案をまとめており、関係者へのヒアリングを通じて今年度上半期にシステムの要件を具体化す、下半期以降にシステムの設計・構築を開始する予定。

また港湾インフラ分野は、港湾の計画から維持管理までのインフラ情報を連携させることで、国及び港湾管理者による適切なアセットマネジメントを実現する。今年度はプロトタイプとして、システム設計・構築台帳等の電子化を図ることとしており、来年4月にテスト開始、4年度中の運用開始を予定している。

2.港湾局、洋上風力基地港湾検討会開催。配置・規模、地域振興に焦点

国土交通省港湾局は5月18日、第1回「2050年カーボンニュートラル実現のための基地港湾のあり方に関する検討会」を開催した。日本風力発電協会、日本埋立浚渫協会、日本港湾協会、日本港運協会などの関係団体も出席し、今後、さらに必要性の増す基地港湾の配置と面積や地耐力の最適規模について、これから検討を加えていく。基地港湾にまつわる具体的な関連産業や地域振興策も検討課題となる。地元市町村と港湾管理者に、より正確な地元への経済波及・雇用創出効果を示すことができるようにする。

検討会では、事務局が配置・規模の課題として3点を提示。①どの地域に基地港湾をいくつ段階的に整備すればよいか、②今後の風車、基礎、SEP船の大型化傾向を踏まえた、基地港湾に求められる配置及び規模（地耐力、岸壁水深・延長、背後ヤード広さ）、③浮体の形式に応じて施工方法が異なるため、基地港湾の配置と規模については浮体式と着床式とでは異なる考え方が必要ではないか、という点で意見を求めた。

3.能代港、鋼管矢板打設工の手続き。洋上風力、大森地区水深10m岸壁

東北地方整備局は、能代港大森地区水深10m岸壁の整備で、WTO案件による本体外工事の手続きを行っている。残っていた鋼管矢板の打設を発注し、岸壁本体工事を本格化させる。

能代港では大森地区国際物流ターミナル整備事業として、洋上風力発電の建設基地となる水深10m、延長180mの岸壁を整備している。

岸壁の構造は前面に鋼管矢板を打ち、背後の地盤全体を深層混合処理工法などで固体化する疑似重力式。

工事は昨年度から着手し、ケーソン式の旧防波堤を転用した既設護岸の撤去を実施。また、撤去が終わった箇所では岸壁の鋼管矢板打設約89mを昨年度末に発注し、岸壁本体工事を開始している。

4.名古屋港金城ふ頭の再編整備事業、4年度末直轄工事へ促進

中部地方整備局名古屋港湾事務所は事業中の名古屋港金城ふ頭の多目的国際ターミナル（水深12m、耐震強化岸壁）整備で、今年度は残っているケーソン3函の築造工事や現在据付中ケーソン（4函分）の裏込工事等を予定している。

金城ふ頭南側の再編事業はくし形になっていた既設ふ頭の前面を締め切る形で岸壁を構築し、水深12m延長260mの多目的国際ターミナルを整備する。自動車輸送船（PCC）の大型化に対応するほか、港内に分散しているモータープールを金城岸壁背後のふ頭に集約して、輸送の効率化を進める。また同岸壁は耐震強化岸壁とし、大規模震災時の物流機能維持にもつなげる。

※港湾空港タイムス5月24日号から編集

※新たに導入したPCとメーカーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////